

災害救済・経済活性化 関東原野のフロンティア

関東郡代 伊奈氏

伊

奈氏が歴史の表舞台で活躍するのは家康の関東入国から。関八州代官頭（いわゆる関東郡代）という幕府の要職に就いた伊奈氏は、この職を世襲し幕政の発展に貢献します。関八州とは、相模・武蔵・上野・下野・安房・上総・下総・常陸の8カ国。現在の関東1都6県とほぼ同様の広大な範囲でした。忠次は、現在の埼玉県伊奈町周辺に所領を与えられますが、

3代忠勝が早世。そこで忠次の次男 忠治が新たに家を起し、川口の赤山周辺に所領を賜り、陣屋を築き本拠とします。
利根川の東遷・荒川の西遷

洪水や灌漑などの治水対策は、徳川幕府の財政基盤を強固にするためには欠かせない重要な政策。家康は三河時代からの土木技術の専門家である伊奈氏に、利根川水系と荒川水系とを切り離す大規模な河川改修を命じます。

これにより、利根川は銚子から太平洋に、また荒川は現在の隅田川から江戸湾に注ぐ姿となり、新田開発や江戸への舟運が活性化しました。

今も残る伊奈氏の遺構

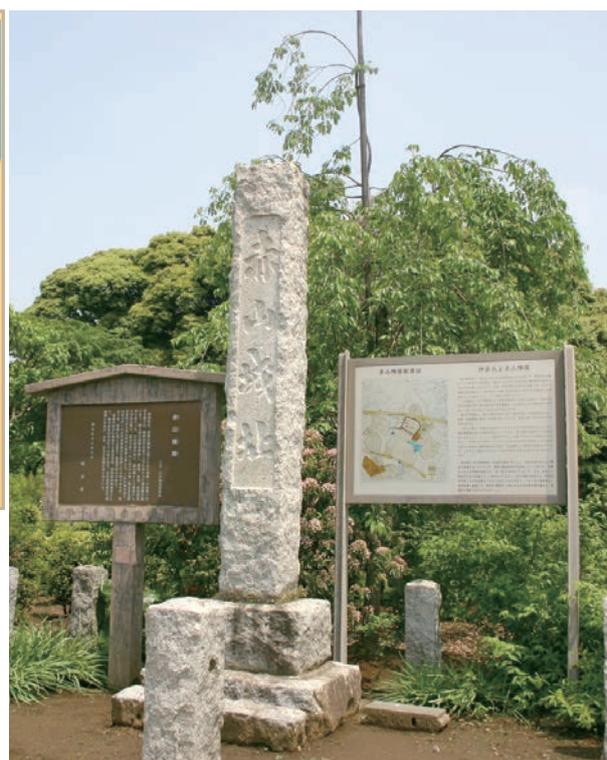
関東各地に今も残る「備前渠」「備前堤」の名の運河や堤防。忠次の「備前守」に由来するものです。千住大橋や両国橋の架橋工事、玉川上水開発工事など、伊奈氏が手がけた関東流と呼ばれる土木事業は、関東発展の根幹を支えたのです。

神

様・仏様・伊奈様。洪水や富士山噴火・飢饉で苦しむ人々の救済に努めた伊奈氏は、庶民からこう讃えられたと伝われます。こうした人気を背景に、伊奈氏は探・騒動の收拾にも力量を発揮しました。

「中山道伝馬騒動」の收拾

明和元年（1764）、中山道の伝馬（人馬での運搬）の増加



関東流土木技術の本拠地

【赤山陣屋跡】

あかやまじんやあと

赤山281

🚗 みんななかまバス「戸塚・安行循環」曲輪下車徒歩15分

に伴い、人足と馬の提供を農民に求める「助郷」の負担が増大していきます。これに反発した武蔵・信濃・上野・下野国の農民が蜂起。幕府の説得も功を奏さず、20万人とも伝わる一揆勢が江戸に迫ります。そこで幕府は農民の信頼が厚い伊奈氏にこの鎮圧

陣屋と家臣屋敷を含めた総面積は約23万3千坪という広大な規模。総延長約1.8キロの内堀の周囲には、自然低地を利用した3キロに及ぶ外堀がめぐる。江戸城内郭の総面積約30万6千坪（『東京市史稿皇城篇』第1東京都編 東京市 1911から換算）と比較すれば、一代官の陣屋としては、いかに広大だったかがうかがえる。

キュポ・ラ1階ロビーで現世を見つめる

伊奈忠治像





伊奈氏の菩提寺

【周光山勝林院源長寺】

しゅうこうざんしゅうりんいんげんちょうじ

赤山1285

🚗 埼玉高速鉄道新宿駅出入口2徒歩10分

源長寺は忠治が幕府から赤山領7千石を賜ったころ古寺を再興し、忠治の両親の法名から周光山勝林院源長寺と寺号

を定め、菩提寺としたと伝わる。境内には忠常が建立した頌徳碑に、忠次・忠政・忠治・忠克の業績が刻まれている。

2百年余にわたる軌跡

【伊奈氏系譜】

いなしけいふ

* ()内は生没年

■伊奈熊蔵家

- 初代 伊奈忠次 (1550年 - 1610年)
- 2代 伊奈忠政 (1585年 - 1618年)
- 3代 伊奈忠勝 (1611年 - 1619年)

■伊奈半十郎・半左衛門家

- 初代 伊奈忠治 (1592年 - 1653年)
- 2代 伊奈忠克 (1616年 - 1665年)
- 3代 伊奈忠常 (1648年 - 1680年)
- 4代 伊奈忠篤 (1669年 - 1697年) (飛騨代官兼務)
- 5代 伊奈忠順 (不明年 - 1712年) (飛騨代官兼務)
- 6代 伊奈忠達 (1690年 - 1756年)
- 7代 伊奈忠辰 (1699年 - 1767年)
- 8代 伊奈忠宥 (1729年 - 1772年) (勘定奉行兼務)
- 9代 伊奈忠敏 (1735年 - 1778年)
- 10代 伊奈忠尊 (1764年 - 1807年)

赤山陣屋と伊奈氏展

📅 2月4日(火) ~ 3月30日(日)

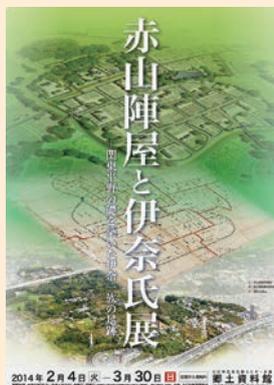
午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで)
(休館日: 2月10・12・17・24日、3月3・10・17・24日)

🌟よみがえる赤山陣屋—初公開

縮尺750分の1で製作した陣屋の模型を、江戸時代に描かれた絵図や発掘調査で明らかにされた資料とともに紹介します。

🌟伊奈氏と川口周辺地域

寛政4年(1792)に幕府から退けられるまで、現在の市域の大部分は伊奈氏の支配下にありました。民衆から慕われたとされる伊奈氏と川口周辺地域との関わりを、貴重な資料とともに紹介します。



市指定文化財
「赤山陣屋敷絵図面」
中山家文書 (個人蔵)

📍 文化財センター分館郷土資料館

鳩ヶ谷本町2-1-22 ☎048-283-3552

※公共交通機関をご利用ください。

忠順の遺徳を 今に伝える

【伊奈神社】

いなじんじや

静岡県駿東郡小山町須走
71-1



宝永4年(1707)、富士山中腹が大爆発する「宝永大噴火」が発生。復興を命じられた忠順は越権行為を恐れず餓死寸前の被災者のため幕府の貯蔵米5千俵を救済に充てるが、幕府は米蔵破りと断じ罰したと伝わる。

忠順を慕い幕府の目を忍んで建てた祠が伊奈神社となり、その遺徳を今に語り継いでいる。春と秋に例大祭が催されている。

を命じたのでした。忠宥は農民の負担の撤回を約束し見事収拾に成功。この功により勘定奉行への出世を遂げます。

「江戸打ちこわし」の収拾
天明年間には、近世日本最大の飢饉「天明の大飢饉」が発生。米不足は価格高騰と投機目的の売り惜しみをもたらします。全国各地で「打ちこわし」となって

庶民の怒りが爆発し、天明7年(1787)、ついに江戸でも発生。町奉行の手に負えない状況に、幕府は忠尊にこの収拾を命じます。忠尊は大量の米を迅速に集め江戸市中に放出し、事態を終息させました。

寛政4年(1792)、伊奈家は改易、所領没収、赤山陣屋はことごとく取り壊されます。忠尊の不行跡や跡取りを巡るお家騒動がその原因でした。庶民に広がる伊奈氏人気を嫌った幕閣との確執が一因とも伝わります。家康とともに江戸を開き庶民とともに生きた伊奈氏。約170年に及んだ活躍は、こうして歴史の闇に埋もれたのでした。